

⑤ シベリカ子 著

『おいしいロシア』

(イースト・プレス)

2020年4月ロシア語学科新設（設置構想中）に先立ち、付属図書館にロシア関連の本が大量に入荷されました。

その中の1冊のこの本は、シベリカ子（作者）から見たロシアの生活様式や国民性、そしてロシア料理の数々がレシピと共に可愛いカラーのイラストで描かれているコミックエッセイで簡単に楽しく読め、しかも料理を作りたくなります。

すぐにこのレシピでプレーンヨーグルト入りの“ボルシチ”を作ってみました。ロシア風の美味しいスープが簡単に作れました。

この大学は留学や旅行など海外へ行かれる学生が多いと思います。諸外国が身近になった今、シベリカ子のように気軽な気持ちで海外で生活し、他国の料理や文化に触れてみるのも一考かと思います。(M.S.)

596.23 ||Shi

⑦ 澁川裕子 著

『オムライスの秘密 メロンパンの謎』

～人気メニュー誕生の物語～

(新潮社)

餃子にオムライスにメロンパン。日本で暮らす私たちにとって、小さいころから食べられている定番のメニューですが、餃子は中華？それとも和食？と問われたとき、どう答えますか。

確かに中国から伝わった食べ物ですが、本場中国では水餃子が一般的で、日本で食べられている焼き餃子は、ご飯のおかずに合うように日本独自で進化した和食なのだそうです。

他にもナポリタンや冷やし中華といった私たちが日ごろよく食べているメニューが、どのように誕生したのかについて書かれています。

いつもとは少し違った視点から料理を見ることで、新しい発見があると思います。(N. T.)

383.8 ||Shi



⑥ 鹿島 茂・井上章一 著

『京都、パリ～この美しくもイケズな街』

(プレジデント社)

フランス文学者の鹿島氏と、「京都ざらい」の著者でもある井上氏の二人による対談集です。姉妹都市でもある「京都市」と「パリ」について、歴史や文化風俗、教科書には載らない話まで、両氏の幅広い知識で語られます。一癖も二癖もあるイケズなこの二つの都市、比べてみると色々と思えてくるのではないのでしょうか。特に興味深かったのは、「洛外」育ちの井上氏が語る、「洛中」の人にとって「京都」とはどこなのか、というところ。 「祇園祭」をやるところが「京都」だという人もいれば、「御所」を中心としたところを「京都」という人もいる。皆さんにとっての「京都」とはどこですか？ (R.M)

291.6 ||Kyot

⑧ 首藤若菜 著

『物流危機は終わらない  
—暮らしを支える労働のゆくえ』

(岩波書店)

近年、インターネット通販の市場拡大により、宅配事業者のドライバー不足が社会問題となっています。普段利用している通販サイトの送料が値上げされた経験を持つ方も多いのではないのでしょうか。本書では、物流の現状が詳細に記され、いわゆる物流危機に対する企業・業界団体・労働組合・国交省・厚労省などの取り組みが具体例とともに紹介されています。

社会インフラとして生活に欠かせない存在となった物流を持続させるために何ができるか、考えるきっかけを与えてくれます。(K.M.)

675.4 ||Shu